

令和 6 年度研究成果概要一覧

◆教員名:鈴木建生

主要研究テーマ

- ①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法
- ②保育におけるインプロの効果的な活用方法

研究成果の概要

- ①「教育方法と技術」「教職概論」「キャリアデザインⅠ」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、コーチングスキルを活用した対話活動を実践し、対話能力が向上。
- ②即興で問題を解決するシナリオを設定し、学生自身の場で解決策を考える活動を行うことで、創造的な思考力を養うことができる態勢が整えられた次年度もさらにインプロを探究していく。

◆教員名:平松喜代江

主要研究テーマ

社会的養護から進学した大学生の自立を支援する児童養護施設の役割

研究成果の概要

本研究は、社会的養護から大学進学した入所継続の若者へのインタビュー調査から、18 歳成人の自立支援の実態を捉えることを目的とした。社会的養護下の若者の自立支援に関して、とくに社会的養護下で大学へ通学する若者の生活支援の課題を探るため、面接調査を行い生活支援の課題を抽出した。その結果、自立支援に関しての助言や情報収集・提供だけではなく、複数の選択肢やその先の見通しに関してイメージがもてるように支援することはとても重要であることが示唆された。

◆教員名:安藤恭子

主要研究テーマ

形や色を通して造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる保育者としての能力を培うための教材の開発研究

研究成果の概要

教員の使命は、その教科に合った学生のためのよりよい授業を構造化し学生一人ひとりの力を付けていくことである。とりわけ、今日的課題であるアクティブラーニングを幼児の造形表現の教科の中で特色をだしながら構造化することを実践し効果を上げることができた。

執筆している教科書も使用しながら一人ひとりの表現を大切にし、よりよい教材化を工夫し、磨き合っ
て高まることができる場を豊かに設定した。年間の学習成果を個人のファイルに整理し、就職後も活用できるようにした。

いつも教材の開発ができるように資料などの整理を工夫し教室環境を整えている。

本年度の成果を来年度に、繋いでいきたい。

◆教員名:橋村晴美

主要研究テーマ

・幼保小接続期の教育の質の向上に関する研究

研究成果の概要

幼児教育の目的の達成に資するため、現行 3 要領・指針改訂（定）の背景を取り上げ、幼児教育の構造と教育的役割について検討を行った。現行 3 要領・指針のスタンスは学校段階間の垣根を越えて改訂（定）されており、「学びの地図」という概念のもと実施されている。しかし改訂の基本方針が不十分な理解のまま実施され、誤った解釈による保育実践や環境構成によって幼児の育ちが保証されない実情が見受けられ、教育的カリキュラム・マネジメントの実施に支障をきたしていることが示唆された。

◆教員名:山野栄子

主要研究テーマ

- ・保育者の専門性と保育の質向上に関すること
- ・教材研究や授業内容の検討に関すること

研究成果の概要

近年保育者の不適切保育について、報道されることが増しているなか、保育職の専門性やその価値をケアの概念からとらえ直すことを目的として、保育者のケア的態度やスキルは、保育者のキャリア形成において、いつどのように獲得されていくのか。保育者キャリアの最初期状態に位置する保育実習生に焦点を当て、保育実習において、ケア対象である子どもとの関係の中で経験した内容やエピソードを昨年試作した「保育態度を確認する尺度」を使用して聞き取った。その結果を現職保育士の結果と照らし合わせて考察した。これらの研究結果を日本保育学会で発表した。

◆教員名:桂山たかみ

主要研究テーマ

絵を見て言葉のリズムを思い起こす「絵カード打楽合奏譜」は幼児のリズム遊びにおいて有効か

研究成果の概要

四日市市主催による、こども芸術体験事業の一環として、児童・生徒の身近な場で優れた生の演奏や姿に触れるという、四日市市の音楽文化の振興と文化の担い手の育成することを目的とした、学校訪問事業に貢献した。また、研究テーマでもある「絵カード」による打楽合奏譜について、幼稚園や保育所で実施検証するなど器楽合奏指導を援助する方法の一つとして、幼児のリズム遊びの有効性について検証した。

◆教員名:田中裕子

主要研究テーマ

「教育における ICT 活用への期待と可能性」

研究成果の概要

本年度も引き続き、①「電子紙芝居とのシナジー効果で完成を紡ぐ応答的思考型読み聞かせセンシング教材の開発」②「サウンド×ICTのコラボレーションから幼児の感性を育む応答型デジタル壁面の開発」の2つの研究を行った。

①は最終年度で教育システム情報学会全国大会(千葉明海大学)一般セッション「初等中等教育」という分科会で「次世代保育のためのインタラクティブウォールデザインの開発・提案ーSociety5.0へのアプローチ」を発表した。

②は研究2年目で、三重県立みえこどもの城、松阪市A保育園の協力を得て、デジタル壁面の設置と実践研究を三重県立みえこどもの城3回、松阪市A保育園3回行い、日本保育学会第77回大会(オンライン)、第45回国際幼児教育学会(千葉明德短期大学)で発表した。今後実践分析し、研究結果をまとめて論文化していく。

◆教員名:徳増全矢

主要研究テーマ

- ・非認知能力を基盤とした教育開発の展望について
- ・幼児教育と社会のつながりにおける現状と展望について

研究成果の概要

非認知能力に関する研究を重ね、非認知能力の一つとされている GRIT やレジリエンスの概念をもとに学生の現状を調査して実践に活用した。そこで得た見地をフリーマガジン等でも提案した。社会とのつながりを深めていくため、三重県の幼児教育の歴史を再度検討し、ユマニテック短期大学紀要に掲載した。三重県においては、社会の求めから私人が幼稚園を設立するケースが多く、幼児教育と社会との関係は深いものがあつた。今後は、さらに社会との関係性の中で幼児教育を充実したものとなるよう、方策を模索していく。

◆教員名:水野友美

主要研究テーマ

- ① ハンセン病ゼロに向かうエンドゲームのための包括的対策研究モデルの構築
- ② アレルギー疾患患者(乳幼児～成人)のアンメットニーズとその解決法の可視化に関する研究

研究成果の概要

①ガーナ国保健省との共同研究を行い、ハンセン病のサーベイランス開始前の社会心理的要因抽出目的のアンケート調査を行った。支援構築し稼働させるためには、物資、専門スキルなど多方面に支援が必要な状況がみられ部分的な支援では機能せず、複層的・複合的な介入をすることが必要であることが示された。

②乳幼児の養育者と医療者とのアンメットニーズを抽出するためにネット上のビッグデータを使用し候補質問を作成した。津市と四日市市などの市町村の支援センターに協力を得て実際の養育者にアンケートを依頼し、これらの結果から養育者が求めているニーズを簡便に把握可能な予測式を作成した。得られたデータを基に、今後さらなる統計解析をし論文化する予定である。

◆教員名:石川美千代

主要研究テーマ

- ・保育の専門性を高める授業の在り方に関する研究
- ・保育者養成校における養成のあり方に関する研究

研究成果の概要

・保育者養成校の実務家教員の立場から、学生が机上の学習においても、より身近に現場をイメージしながら実践力を身に付けるための授業研究を進めた。協同学修による他者の理解や意見の尊重の重要性を身に付け、保育者としての資質を高める足掛かりとなった。

・夢と希望を持って保育者養成校に入学してきた学生へ、保育職の魅力を伝え、充実した学生生活を主体的に送ることができるような目標設定の重要性等、保育者養成校としての養成のあり方について、ユマニテク短期大学紀要に掲載した。

◆教員名:仲森みどり

主要研究テーマ

- ・発達障害児の保護者への支援
- ・日本におけるインクルーシブ教育・保育の現状と課題 ―特別支援教育・保育を踏まえて―

研究成果の概要

我が国では、障害者権利条約の批准に伴い、様々な法整備や障害のある児童生徒が十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備が行われてきた。2022年には、国連の障害者権利委員会による批准後初めての審査が行われ、「インクルーシブ教育」について改善勧告を受けた。先行研究では、改善勧告を受けたことを踏まえ、「インクルーシブ教育」の現状と課題について論じられている。そのため、「インクルーシブ教育・保育」について整理し、今後の展望としてどのように「インクルーシブ教育」に向けて進んでいけば良いのかを検討した。

◆教員名:大矢知佳

主要研究テーマ

脳・神経系の働きに着目した子どもの運動機能の発達について

研究成果の概要

子どもの運動能力は体力・運動能力テストの記録や動きの観察評価から示されることが一般的であるが、動きの根幹は脳・神経系の活動となるため、この機能的視点より子どもの運動能力の特徴を示すことを目的とした。本研究では、運動時の神経活動の評価指標として活用されつつある筋電図間コヒーレンス法を用いて、運動制御機能の発達の特徴について調査を行った。その結果、歩行中の下肢筋間における同調性において、短期間による月齢変化は見られなかったが、運動頻度の違いによって、異なり、運動頻度が高い方が同調性が高く、運動制御が巧くできる傾向があることを示した。また、視覚誘導を伴う歩行課題と通常の歩行課題では運動頻度が高い対象者群では特に違いは見られなかった。一方で、運動頻度が低い対象者群では視覚誘導を伴う歩行課題では有意に高くなり、課題の難易度が上がると同調性に変化が見られることを示した。これらの結果は、実際に表出される動きだけでなく、機能的な視点からも幼児期の運動経験の重要性を示したと考えられる。

◆教員名：中村真緒

主要研究テーマ

対人関係に影響を及ぼす要因の究明－人と関わる力の育ち－

研究成果の概要

保育者不足の解決策が日々求められており、その一因は職場における対人関係にあるともされている。対人関係能力は保育職に最も必要な能力であり、保育者養成校としては教育の一環としての課題ともいえる。そこで本稿は、保育者として必要な対人関係能力の感情・態度(行動)でもある、“対人信頼感”と“向社会的行動”について調査を行い、対象者の傾向から教育の手がかりを考察した。その結果、対人信頼感では「不信感」、向社会的行動では「思いやり」が高い学生は、総得点も高く向社会的能力・対人信頼感能力が高い傾向が見られた。それぞれのカテゴリーに着目しアプローチをしていくことで、能力を向上させる手がかりとなる可能性が示された。

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 31 日

職名 教授

氏名 鈴木 建生

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法 ②保育におけるインプロの効果的な活用方法
---------	---

研究成果の概要

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

短大学の学修の場においてアクティブ・ラーニングを開発するにあたって、ペアワーク、グループワークなどの場面を多用する。そのような場において、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスマコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることが観察される。本年度も「教育方法と技術」「教職概論」「キャリアデザインⅠ」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、コーチングスキルを活用した対話活動を実践した。具体的にはテキストとして「信頼関係を築くコーチングスキル養成講座」を用いながら、傾聴の基本から質問スキル、承認のスキルのポイントを確認しながらスキル修得に努めた。特に日常生活の中で、学生同士のコーチングを通して、ピアサポートの実践を行った。活用方法の分析を行う予定である。

②保育におけるインプロの効果的な活用方法

インプロ（即興演劇）は、保育の現場で子どもたちの創造性やコミュニケーション能力を育むために非常に効果的である。保育におけるインプロの活用方法についてインプロアカデミーの内海隆雄氏の研修内容である。1. *自由な表現を促すゲーム。子どもたちが自由に動いたり、声を出したりできるインプロゲームを取り入れることで、自己表現の幅を広げることができます。例えば、「お題に沿った動きを即興で行う」ゲームなどが効果的である。

2. 協力を学ぶ活動。グループで行うインプロゲームは、他者との協力やコミュニケーションの重要性を学ぶ機会を提供する。たとえば、ストーリーを順番に作り上げる「即興物語」などが効果的である。

3. 感情表現の練習。子どもたちがさまざまな感情を表現する練習として、特定の感情をテーマにした即興劇を行うことができる。これにより、感情の理解や共感性が育まれる。

4. 問題解決能力の向上。即興で問題を解決するシナリオを設定し、子どもたちがその場で解決策を考える活動を行うことで、創造的な思考力を養うことができる。

以上、次年度もさらに研究を継続していく所存である。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 1 ） 学術論文（ 1 ） 学会発表等（ ） その他（ 3 ）

国際活動の有無（あり・なし） 社会的活動の有無（あり・なし）

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2025/04/12	

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 31 日

職名 教授

氏名 平松 喜代江

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	社会的養護から進学した大学生の自立を支援する児童養護施設の役割
---------	---------------------------------

研究成果の概要

1. 学会発表

- 1) 平松喜代江, 堅田明義ⁱ「社会的養護下で大学進学した事例の生活支援の課題～継続養育について～」日本社会福祉学会 第 72 回秋季大会 令和 6 年 10 月 @ 日本福祉大学
- 2) 平松喜代江, 蛸沢光ⁱⁱ, 梅谷聡子ⁱⁱⁱ, 浦田雅夫¹「社会的養護を経て大学等へ進学した後の支援～奨学金給付と合わせた伴走型支援の課題と展望～」日本子ども虐待防止学会 第 30 回学術集会かがわ大会 公募シンポジウム

2. 論文 (学会誌・紀要)

- 1) 平松喜代江「社会的養護における自立支援の一考察－能動性を育む支援」『社会的養護研究』全国児童養護問題研究会, 2025 年 3 月.
- 2) 平松喜代江「児童養護施設における自立支援に関する研究～韓国児童養護施設からの示唆～」ユマニテク短期大学紀要 Vol.9、2025 年 3 月.

3. 著書

- 1) 共著「こどもまんなか福祉論」中央法規, 2024 年 9 月.

4. その他発表

- 1) 平松喜代江「子育てに役立つ 「怒る」と「叱る」の違い」雑誌きらきら, 2024 年 5・6 月.

5. 講座

- 1) 四日市市人権センター「よっかいち人権大学あすてっぷ 2024」「貧困・子ども・人権－大切にしていきたい子どもたちの想い－」2024 年 9 月 7 日, 四日市市総合会館.

- 1 中部学院大学 特命教授
- 2 ひだまりの丘 理事長
- 3 花園大学 嘱託講師
- 4 京都女子大学 教授

※ () に本数をご記入ください。

著書 (1) 学術論文 (2) 学会発表等 (2) その他 (2)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2025 年 3 月 31 日	

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 18 日

職名 教 授

氏名 安藤 恭子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる将来の保育者としての能力を培うための教材の開発研究
---------	--

研究成果の概要

乳幼児の発達段階に合った形と色に関わる教材の開発をすすめた。とりわけ、授業構成にてアクティブラーニングを効果的に取り入れ、自ら求め磨き合って高まる作品作りが学生の授業への充実感として現れた。

画材の組み合わせを工夫して学生の個に応じた指導の充実を図り成果があった。

年間を通して、諸題材では執筆している萌文書林より出版の「幼児造形の基礎」を教科書として採用し授業に生かすようにした。

学生一人一人が毎回の作品及び資料の数々を一冊のファイルにまとめることにより、学習実態の見える化を図った。その成果があり、個々の作品が向上した。

いつでも、学生のアイデアを取り入れた教材の開発ができるように、資料、素材等の収集に努め、教室の環境経営を充実させることができた。

本年度の成果を来年度に繋げていきたい。

※ () に本数をご記入ください。

著書 (2) 学術論文 (0) 学会発表等 (0) その他 (6)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2025/3	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 2 月 27 日

職名 教授

氏名 橋村晴美

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	幼保小接続期の教育の質の向上に関する研究
---------	----------------------

研究成果の概要

<論文>

・橋村晴美・梅田祐介・岩山勉

「幼児教育における主体という言葉の再考～環境を通した教育を足掛かりにして～」

愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第10号 2025年3月

・橋村晴美

「幼児教育の充実～令和の幼児教育における教育的役割についての再考～」

ユマニテク短期大学研究紀要第8号 2025年3月

幼児教育の目的の達成に資するため、現行3要領・指針改訂（定）の背景を取り上げ、幼児教育の構造と教育的役割について検討を行った。現行3要領・指針のスタンスは学校段階間の垣根を越えて改訂（定）されており、「学びの地図」という概念のもと実施されている。しかし改訂の基本方針が不十分な理解のまま実施され、誤った解釈による保育実践や環境構成によって幼児の育ちが保証されない実情が見受けられ、教育的カリキュラム・マネジメントの実施に支障をきたしていることが示唆された。

<著書>

・監修：中坪史典・請川滋大 テキスト：「保育教育課程論」（カリキュラム・マネジメントの意義と実際）

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 1 ）学術論文（ 2 ）学会発表等（ ）その他（ 2 ）

国際活動の有無（あり ☐ なし ☒ ） 社会的活動の有無（あり ☒ なし ☐ ）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2 月	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 10 日

職名 特任教授

氏名 山野 栄子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	・教材研究や授業内容の検討に関すること ・保育者の専門性と保育の質向上に関すること
---------	--

研究成果の概要

- ① オンライン開催であった日本保育学会・中部地区研究集会・保育政策検討委員会や日本子ども虐待防止学会、全国保育士養成セミナーに参加したり、対面開催された三重県小児保健協議会、東海保育保健研究会、全国保育者養成教育学会などに参加し、保育内容の検討や教材等について、新しい情報を得て研鑽を積んだ。その学びを授業や、各種研修会の講座などで活かすことができた。
- ② 昨年度に続き、保育職の専門性をケア論の枠組みで考察することを試みた。昨年度現職の保育者に保育職の継続・専門性の向上を促進する体験として、「保育が楽しいと感じた場面」「思うようにいかずいらった場面」のエピソード収集結果の分析から、ケア対象と関係を育むことや、成長に喜びを感じていることが分かった。ケアされる者との相互な関わりを深めながら、ケアされる者の可能性を開こうとする態度やスキルを身につけていることが示唆された。このような態度やスキルは、いつどのように獲得されていくのかを昨年、試作した保育態度を確認する尺度を使用して、実習生と現職保育士の結果と照らし合わせて考察した。その結果を日本保育学会で「ケア論から見た保育の専門性（3）」と題して発表した。（共同研究者 華頂短期大学・渋谷郁子、ユマニテク短期大学非常勤・小島佳子）
- ③ その他、保育者対称の保育の質向上に関する研修会で講師を務めたり、三重県保育総合研修会の分科会で助言を務め、現場の教育・保育の資質向上に研究成果や学びを活かした。また、広く地域の家庭教育学級講座、ファミリーサポート養成講座などで講師を務め、地域貢献にも役立てた。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ ）学術論文（ ）学会発表等（ 1 ）その他（ 19 ）

国際活動の有無（あり ☒ なし） 社会的活動の有無（あり ☒ なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3/14	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 2 月 21 日

職名 准教授

氏名 桂山 たかみ

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究
---------	-------------------------------------

研究成果の概要

1. 講座・演奏

- ・高大連携事業「音楽表現講習」2024 年 6 月（鈴鹿高等学校）
- ・四日市市こども芸術体験事業（講師・マリンバ演奏）
2024 年 8 月（四日市幼稚園・四日市泊山幼稚園）、2024 年 11 月（八郷西小学校）
- ・インドネシア民族楽器コンサート 2024 年 8 月
- ・いなべ市旧立田小学校区記念事業 2024 年 9 月
- ・四日市市民大学講座（講師・マリンバ演奏）2024 年 12 月
- ・菰野町竹永地区学童保育行事 2024 年 12 月
- ・ユマニテク短期大学入学前講座（ピアノ入門）2024 年 11 月、2025 年 1 月

四日市市主催による、こども芸術体験事業の一環として、児童・生徒の身近な場で優れた生の演奏や姿に触れるという四日市市の音楽文化の振興と文化の担い手の育成する事を目的とした学校訪問事業に貢献した。

保育者養成校の音楽教員の立場から、音符ではなく絵の器楽合奏譜の創作を行っている。こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとしてとして、様々な打楽器の作曲をするなどの研究を進め、音楽に苦手意識を持つ保育者志望の学生や保育者に向けた楽譜を考案し、器楽合奏を楽しむ足掛かりを論じた。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 0 ） 学術論文（ 0 ） 学会発表等（ 0 ） その他（ 10 ）

国際活動の有無（あり・なし） 社会的活動の有無（あり）なし

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3/30	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 27 日

職名 准教授

氏名 田中 裕子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	「教育における ICT 活用への期待と可能性」
---------	-------------------------

研究成果の概要

本年度は、①「電子紙芝居とのシナジー効果で完成を紡ぐ応答的思考型読み聞かせセンシング教材の開発」②「サウンド×ICT のコラボレーションから幼児の感性を育む応答型デジタル壁面の開発」の2つの研究を行いました。

①は最終年度で8月27日～29日 教育システム情報学会全国大会（千葉明海大学）2日目28日、一般セッション「初等中等教育」という分科会で「次世代保育のためのインタラクティブウォールデザインの開発・提案—Society5.0へのアプローチ」を発表しました。

②は研究2年目で、三重県立みえこどもの城、松阪市A保育園の協力を得て、デジタル壁面の設置と実践研究を三重県立みえこどもの城3回、松阪市A保育園3回行いました。②の研究結果については、日本保育学会第77回大会（5月12日オンライン）、第45回国際幼児教育学会（9月20～22日千葉明德短期大学）で発表しました。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 1 ） 学術論文（ 3 ） 学会発表等（ 3 ） その他（ 4 ）

国際活動の有無 ☒ なし 社会的活動の有無 ☒ なし

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3 月 27 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 28 日

職名 准教授

氏名 徳増 全矢

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	① 幼児期における非認知能力の育成に関する研究 ② 子育てと社会教育力との関係性に関する研究 ③ ネイチャーゲームを用いた環境学習に関する研究 ④ ピア・サポートを用いた学習環境構築に関する研究 ⑤ 実習生の評価および実習に対する意識に関する研究
---------	---

研究成果の概要

- ①非認知能力に関する文献研究を進めた。得られた見地をもとに、子育てファミリー応援フリーマガジン「きらきら」に GRIT に関するコラムを投稿した。さらなる研鑽が必要であり、今後も見地を深める。
- ②子育てと社会の関係性を見ていく上で、幼児教育の歴史の黎明期を明らかにしたいと考え、明治期における三重県の幼児教育の歴史を調べ、系統的に示すことができた。三重県において、社会の必要性から幼稚園の設置に至っており、幼児教育において社会との接点が改めて重要であることを再確認する結果となった。
- ③三重県私立幼稚園連盟主催の新人教員研修に、三重県シェアリングネイチャー協会として講師を務めた。参加者は 45 名。三重県ネイチャーゲーム協会主催の事業に 3 回講師として参加した。参加者は幼児から大人まで各界 20 名程度。コロナの影響がいまだに残る中で、自然体験活動の大切さを改めて感じた。今後は、本学におけるネイチャーゲームリーダー資格取得に向けた準備など、さらに活動を深めていきたい。
- ④ピアサポートの実践用ビデオを、ピアサポート学会静岡支部の山口先生と共同で制作し、各研修会で得点として開示した。参加者が活動を計画・振り返りするための指標とする目的である。
- ⑤実習指導者認定講習を受講し、実習指導担当者として対応が可能となった。学生を対象に実習の評価に関する研究を進めたが、データを再検討する必要があるため来年度の発表を目指して研究を進める。

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 (1) 学会発表等 () その他 (2)

国際活動の有無 (あり・☒なし) 社会的活動の有無 (☒あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/23	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 12 日

職名 准教授

氏名 水野友美

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	① ハンセン病ゼロに向かうエンドゲームのための包括的対策研究モデルの構築 ② アレルギー疾患患者（乳幼児～成人）のアンメットニーズとその解決法の可視化に関する研究
---------	--

研究成果の概要

- ① ガーナ保健省との共同研究（アフリカ、ガーナ共和国）のため現地を訪問（2024 年 8-9 月）ハンセン病拠点病院である 2 か所の病院にて医療従事者と患者、周辺に居住している回復者に対してアンケート調査をし、医療体制を構築し稼働する為の要因抽出を行った。医療機関に繋がった層の属性として、識字率の低い層、貧困層、女性、郊外の居住者、低学歴が傾向として多くみられた。また、医療提供側の状況としてはより専門性の高いスキル獲得意欲は高いものの、システムが構築できていなかったり資材の不足があったりすることで現場の職員の意欲と環境条件が合致していないことが見られた。ハンセン病の有無を確認するスミア検査を現場の検査技師にトレーニング研修を実施した前後での疾患への知識や態度、認識についての調査ではあまり差がみられず、スキル研修を実施しただけでは包括的な治療モデルを稼働させるには難しく、複層的・複合的な介入をすることが必要であることが示された。また、他国比較としてインドネシアの医療施策を視察（2025 年 3 月）した。検査体制が確立されており、罹患者もいる状況で、疾患への偏見や罹患者数の減少による医療者の経験不足による鑑別困難が課題として挙げられた。

第 8 回日本国際小児保健学会 Socio-psychological factors of leprosy related to treatment behavior. 2024 年 10 月、北スマトラ大学医学部 2025 年 3 月

共同研究者 谷口清州 独立行政法人国立病院機構三重病院院長

- ② アレルギー疾患は、小児から成人までのライフステージを通して、罹患者の生活の質に大きな影響を与える。特に乳幼児期はアレルギーマーチの最上流にあって、アトピー性皮膚炎発症後、食物アレルギーそして喘息へと繋がるクリティカルな時期である。それら、アレルギーが発症あるいは発症リスクのある乳幼児の養育者が抱える悩み、不安は負担感は少なくないと想定される。現在、これら不安・負担がらが受け止められないと、適切な対応がされないままとなって、不適切なスキンケア、誤った食事摂取方法、誤った民間療法などに陥り、食物アレルギー発症、重症化、そして喘息へ繋がるリスクとなる。本研究は、医療ニーズが合致しなかった多くの患者のアンメットニーズをインターネット上のビッグデータである「Yahoo!知恵袋」や患者会所属の養育者からの回答を元に補質問を作成し、アレルギー専門

医、精神科医、小児科医、公認心理士などによる専門家による協議・修正の上、最終的な候補質問を完成した。0歳～2歳までの乳幼児を養育する養育者の負担を定量的に評価できる質問票を開発することを目的とした。統計学的解析のアウトカムに用いる既存尺度のヘルスリテラシー尺度と子育てインデックスショートフォームへの回答を依頼し、データ収集を行い、合計880名（診断済み294名、未診断586名）の回答者を完了した。得られたデータを元に、アンメットニーズを予測する候補質問を選出した。質問文の最終調整において（「私は」という主語を追加し質問の読みやすさ、回答選択文言統一等）さらなる文章編集を行ったそして、得られたデータより、アウトカムとして選定した既存の2尺度との回答傾向を解析し予測式を作成した。この予測式と各回答傾向、属性との相関について解析を行っている。本年度は論文化まで至らなかった為、来年度に継続する。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 0 ） 学術論文（ 0 ） 学会発表等（ 1 ） その他（ 1 ）

国際活動の有無（あり） 社会的活動の有無（あり）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2025/3	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください

ユマニテク短期大学
令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 3 日

職名 講師

氏名 石川 美千代

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	保育の専門性を高める授業の在り方に関する研究 保育者養成校における養成のあり方に関する研究
---------	--

研究成果の概要

1. 論文（紀要）

- ・石川美千代「保育者養成校における養成のあり方とは～保育者養成校としての役割～」
ユマニテク短期大学紀要 Vol. 9、2025 年 3 月
夢と希望を持って保育者養成校に入学してきた学生へ、保育職の魅力を伝え、充実した
学生生活を主体的に送ることができるような目標設定の重要性について論じた

2. その他の発表

- ・石川美千代「ユマ短先生の子育てコラム」雑誌きらきら、Vol. 81, 2024 年 7・8 月
～『自我の芽生え』とどう向かい合う？～
- ・石川美千代「ユマ短先生の遊び講座」雑誌きらきら、Vol. 82, 2024 年 9・10 月
～「おはぎがおよめにいくときは」体を使った遊びの紹介
- ・石川美千代「絵本紹介」雑誌きらきら、Vol. 83, 2024 年 11・12 月
～「どっちからよんでも」

3. 講座

- ・桑名市子育て支援センター職員研修会「保護者支援について」 2025 年 1 月
市内 8 か所の公私立子育て支援センターの職員に対し、自身の子育て支援センターでの
経験や利用者からの声やいただいた手紙等も交えながら、様々な実例を基に保護者支援の
在り方を講義した。また、グループワークを取り入れ、支援者間で意見交換を行うことで、
保護者支援の重要性や意義などを互いに共有し確認できるようにした。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 0 ） 学術論文（ 1 ） 学会発表等（ 0 ） その他（ 3 ）

国際活動の有無（あり・なし） 社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力す ることとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更 新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
令和 7 年 3 月 3 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、
個人情報）の記載は行わないようご注意ください

ユマニテク短期大学

令和 6 年度 研究概要報告書

令和 7 年 3 月 10 日

職名 講師

氏名 仲森 みどり

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	発達障害児の保護者への支援の在り方 日本におけるインクルーシブ教育・保育の現状と課題 ―特別支援教育・ 保育を踏まえて―
---------	--

研究成果の概要

1. 論文

「日本におけるインクルーシブ教育・保育の現状と課題―特別支援教育・保育を踏まえて―」

ユマニテク短期大学紀要第8号 2025年3月

我が国では、障害者権利条約の批准に伴い、様々な法整備や障害のある児童生徒が十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備が行われてきた。2022年には、国連の障害者権利委員会による批准後初めての審査が行われ、日本における「インクルーシブ教育」について総括所見・改善勧告が公表された。そのため、改めて目指していくべき、「インクルーシブ教育システム構築」について見つめ直し、真摯に取り組んでいく必要がある。先行研究では、改善勧告を受けたことを踏まえ、「インクルーシブ教育」の現状と課題について論じられている。本研究では、「インクルーシブ教育・保育」について整理し、今後の展望としてどのように「インクルーシブ教育」に向けて進んでいけば良いのかを検討した。

2. 学童保育巡回指導支援(川越町 令和6年7月～9月)

3. 講座

令和6年度三重県児童館連絡協議会 児童厚生員等研修会講師

講演テーマ「配慮を要する児童の対応について」

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 (1) 学会発表等 () その他 (4)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3/17	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報(研究アイデア、知財情報、個人情報)の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和6年度 研究概要報告書

令和7年2月14日

職名 助教

氏名 大矢 知佳

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	子どもの身体・運動機能の発育発達について
---------	----------------------

研究成果の概要

近年、子どもの身のこなしについて注目されており、自分の身体を巧くコントロールできない子どもが目立つ。子どもの運動能力の評価には主に体力・運動能力テストの結果や動きを観察して評価する方法がよく用いられる。しかし、身体動作の根幹は脳や神経系の働きであり、これらの働きの結果、動作として表れる。そこで、子どもの運動中の神経系の働きを客観的な評価指標を用いて、発育発達の特徴について示した。神経系の働きの指標としては筋電図間の共通の律動を 0～1 の間の相関をコヒーレンス値として示した。年長児において、コヒーレンス値は月齢や体格との相関は見られなかった一方で、運動頻度が高い子どもは低い子どもよりも有意に高く、日常の運動経験に影響を受けていることを機能的視点より示した。

大矢知佳, 石原勇次郎, 村松愛梨奈, 寺本圭輔 2025 年 3 月 幼小児健康教育学会誌 投稿予定

私たちは、日常の生活の中で、ただ単に歩行するという動作は少なく、複数の課題を同時に処理しながら身体動作を伴っている。そこで、先のコヒーレンスを指標として、単一的な歩行動作と複数の課題を同時に行う二重課題との運動課題間において日常の運動経験が影響を与えるのかを検討した。運動頻度が低い子どもは課題間の変化が見られ、二重課題時にコヒーレンスが高くなった。一方で運動頻度が高い子どもは課題間の変化は見られなかった。この結果から同時に複数の課題を伴う場合であっても神経活動に違いはなく実施できたことから日常の運動経験の影響を受けていることを示した。しかし、パフォーマンス結果と併せての検討ではないため、今後は実際の動きとともに評価していく必要がある。

大矢知佳, 石原勇次郎, 村松愛梨奈, 寺本圭輔 (2024) 幼児期の運動習慣が通常歩行と視覚誘導歩行間の神経駆動の強さの違いに及ぼす影響, 教科開発学論集, 13, 49-58

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 (1) 学会発表等 () その他 ()

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2024 年 3 月	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和6年度 研究概要報告書

令和7年3月28日

職名 助教
氏名 中村 真緒

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	① 対人関係に影響を及ぼす要因の究明－人と関わる力の育ち－ Investigating Factors Affecting Interpersonal Relationships: The Development of Social Skills
---------	---

研究成果の概要

① 「対人関係に影響を及ぼす要因の究明－人と関わる力の育ち－」『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学，第8号，2025年3月。 我が国は，保育需要が高いにもかかわらず，保育士の不足が深刻な問題となっている。厚生労働省の調査によると，保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者のうち，半数以上が勤務年数5年未満であり，早期離職の傾向も顕著となっている（厚生労働省，2014）。保育分野における人材不足の原因・理由として「保護者との関係が難しい」と感じている様子がうかがえる（厚生労働省，2014）。また，保育所で勤務する保育士は，経験年数が低い層が多く8年未満の者が約半分となっている。さらに，保育所で勤務する保育士の離職者は，全体で9.3%となり私営保育所においては10.7%との結果もあり，過去に保育士として就業した者が退職した理由では「職場の人間関係」が3割強と最も多くなっている（厚生労働省，2020）。よって，人間関係の問題が，離職の一因となっている可能性がある。保育者不足の解決策が日々求められており，その一因は職場における対人関係にあるともされている。対人関係能力は保育職に最も必要な能力であり，保育者養成校としては教育の一環としての課題ともいえる。そこで本稿は，保育者として必要な対人関係能力の感情・態度（行動）でもある，“対人信頼感”と“向社会的行動”について調査を行い，対象者の傾向から教育の手がかりを考察した。ここで，対人信頼感とは「他者に対する信頼の感情や態度」を指す。具体的には，他人が誠実であり，約束を守り，協力的であると信じることをいう。対人信頼感とは，社会的な関係やコミュニケーションの質に大きな影響を与える。向社会的行動とは「他者や社会全体の利益を考え，自発的に行う助け合いや協力の行動」を指す。どちらも保育者として必要な感情・態度（行動）であるため，今回はこの2点に焦点をあて調査を行った。その結果，対人信頼感では「不信感」，向社会的行動では「思いやり」が高い学生は，総得点も高く向社会的能力・対人信頼感能力が高い傾向が見られた。それぞれのカテゴリーに着目しアプローチをしていくことで，能力を向上させる手がかりとなる可能性が示された。

＜その他＞ 社会貢献活動

(1) 三重県児童館連絡協議会 児童厚生員研修「表現活動」の講師

(2) 三重県教育委員会 幼児教育スーパーバイザー及び幼児教育アドバイザー派遣事業「リズム表現遊び」の講師

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 (1) 学会発表等 () その他 (5)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3 月 28 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください